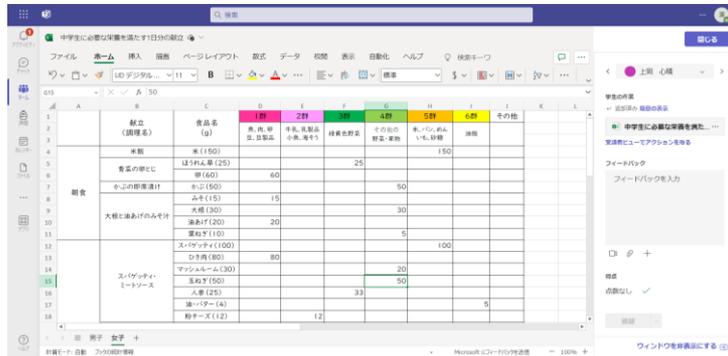


リーディングDXスクール事業【実践事例】

松山市立勝山中学校（愛媛県）

【取組内容①】「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実につながるクラウド活用

クラウドツールを用いて白紙の段階で共有し、常に参照できる状態で作業



① Word、Excel、PowerPoint等で予め簡単な様式を作っておき、Teams等を活用して共有する。

② 生徒は指定された枠内やスライド内で編集作業を行う。

- 活用したツール
- ・ Teams
 - ・ Word
 - ・ Excel
 - ・ PowerPoint など

◇ポイント・○成果・△課題

- ◇常に共有された状態なので、他の意見を取り入れやすく、行き詰っている生徒にとっては参考にしやすい。また、作業が速い生徒にとっても、様々な意見を知ることが、自身の考えを深めることにつながった。
- 様々な見方・考え方や表現方法を短時間で一斉に共有することができ、短い時間で生徒の思考を深めることができた。
- △他の人の枠やスライドも編集することができるので、活用する際は十分な事前指導が必要である。

【取組内容②】 移動時間を削減しつつ学びを深めるオンライン会議の活用

ビデオ会議機能を活用した生徒総会や小・中交流会

Teamsのビデオ会議機能を活用し、生徒総会や小中交流会をオンラインで実施した。

生徒総会の話し合い活動では、勝中生の課題を解決するために、パソコン室から司会をする議長団の進行のもと、各学級で自分たちができることについて意見を述べ合い、1学期の活動の振り返りを行った。

活用したツール
・ Teams
(ビデオ会議機能)



小・中交流会では、校区内にある、清水小学校、姫山小学校、味酒小学校の6年生に向けて、勝山中学校の授業や行事、部活動等、資料を提示したり、質問に答えたりしながら、勝山中学校の特色や魅力を発信した。

◇ポイント・○成果・△課題

- ◇オンラインで交流することで、移動の時間の削減ができる。
- 相手を意識しながら、ホワイトボードで絵を描いて伝えたり、身振り手振りを交えて伝えたりと、発表や意見交流ができるため、学びが深まる。

